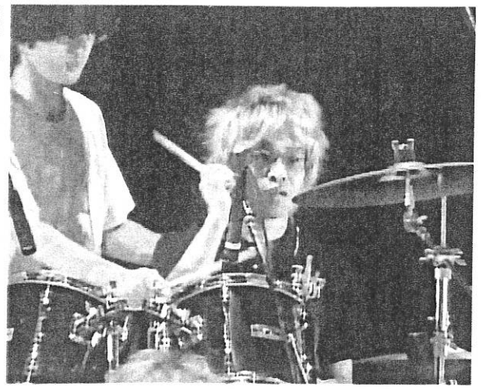
熱いぜ！盲ろうドラマー

「やればできる」伝えたい

目と耳が不自由な松江市在住のドラマー、安食利行さん(53)が11月、大阪市天王寺区で演奏会を開催する。独自のレッスン法と特訓でリズムの取り方をマスターし、「日本で唯一」の盲ろうドラマーとして中国地方で軽快なスティックさばきを披露してきた。近畿での公演は初めてで、「『努力すればできないことはない』と伝えたい」と意気込んでいる。（浅野友美）



講師に肩をたたいてもらいながら、ドラムを演奏する安食さん（2010年8月、鳥取県米子市で）＝「視聴覚二重障害者福祉センターすまいる」提供

安食さんは小学生の頃、病気で聴力を失った。松江ろう学校（松江市）で学び、卒業後は地元の福祉工場に就職。20歳を過ぎた頃、今度は目が見えにくくなり、弱視と診断された。今では光を感じる程度しかできず、触手話などでコミュニケーションを取る。

そんな安食さんの心の支えが音楽だった。10代の頃からロックなどが好きで、メロディーは聞こえないが、ヘッドホンを付けて大音量にし、振動となって体全体に伝わるリズムを感じ取っていた。

ドラムとの出会いは2007年5月。加入している「しまね盲ろう者友の会」（松江市）が翌08年11月に中四国地方の障害者らの交流イベントを開くことになり、演奏に挑むことにした。リズムを取りやすく、たたけばストレスや悩みが吹き飛ぶ爽快感がドラムを選んだ理由だった。

ただ、楽器を触るのは初めて。手話通訳士の同伴で地元の音楽教室に通い始めた。練習は月3回で、1回30分ほど。最初は模造紙に大書きされた音符を見てリズムを覚えようとしたがうまくいかなかった。

そこで、リズムを狂わせることなく、一定の間隔を保って演奏できるようにするため「おすし、おすし」や「食べたい、食べたい」と唱えながらたたくと、動きがスムーズに。勤務の合間や自宅でも菜箸をスティック代わりに練習を重ねた。

1年半の特訓を経て、迎えた本番ではYUIさんの「CHE.R.RY」などを披露。会場に響く拍手と歓声を肌で感じ、経験したことのない充足感に包まれた。今やレパートリーはAKB48など十数曲になり、公演は松江市や鳥取県米子市など計6回に上る。

天王寺で11月公演

演奏時には音楽講師が安食さんの後ろに立ち、肩をたたいて拍子の取り方を教えるが、それ以外は普通のドラマーと変わらない。「全国盲ろう者協会」（東京都新宿区）は「盲ろう者のドラマーは聞いたことがない」と驚く。

活動ぶりを知った大阪市天王寺区のNPO法人「視聴覚二重障害者福祉センターすまいる」の門川紳一郎理事長(50)が11月3日に同区で開催する「わくわくふれあいフェスタ」に出演を依頼した。

目と耳が不自由な門川理事長は「とても難しいことに挑戦し、勇気づけられる。ぜひイベントを盛り上げてほしい」と期待する。安食さんは「周囲の支えで、ここまでくることができた。今後は全国を回って演奏を披露し、同じ境遇の人たちに元気を与えたい」と話す。

イベントは3日午前10時から同区民センターであり、安食さんは午後3時頃から3曲を演奏。入場料は当日1800円など。問い合わせは同NPO（06・6776・2000）。

元保育園長着服 9年半で9100万円

高槻、給与架空請求も

高槻市の私立保育園で、元園長の女性(62)（懲戒解雇）が運営費を着服していた問題で、元園長の着服総額は2005年からの9年半で約9100万円に上ることがわかった。園を運営する社会福祉法人「大阪水上隣保館」（島本町）が25日、弁護士らでつくる第三者調査委員会の最終報告書として公表した。

最終報告書によると、着服の手口は、すでに明らかになっている領収書の改ざん以外に、職員2人を雇ったように装って給与を架空請求する方法もあった。領収書の改ざんで約6700万円、給与の架空請求で約2200万円を着服していたという。

元園長は着服金を高級ブランドの衣服や絵画の購入などに流用していたが、調査委員会の聴取に「買い物依存症だった」と答えたという。これまでに4500万円を返したというが、同法人は残額の返還を求め、応じない場合は刑事告訴を検討するとしている。

東大阪ダブル選 あす投開票

東大阪市長選と同市議選（定数38）が27日、投開票される。新人で前市議の浜正幸氏(63)、3選を目指す現職の野田義和氏(58)の一騎打ちとなっており、大型事業の推進の是非などについて論戦を展開。市議選も、候補者54人が市内各所で支持を訴えている。

期日前投票は、24日までの4日間で1万9524人が投票し、2011年の前回選と同時期の約1・4倍に上っている。

投票は27日午前7時～午後8時、同9時から市立総合体育館で開票される。19日現在の有権者数は39万7277人。

茶の湯と出会う現代芸術

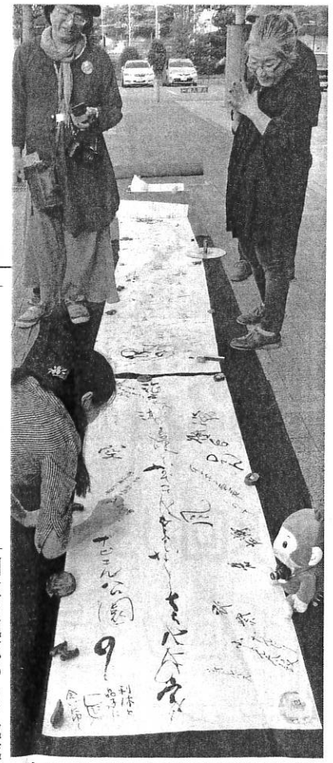
あす さかい利晶の杜

堺で栄えた茶の湯文化などに現代アートを融合させたイベント「アートde茶会」が27日、堺市堺区のさかい利晶の杜で開かれる。

堺の魅力を現代アートで発信するイベント「堺アルテポルト黄金芸術祭2016」（来年3月開催）のプレ事業。会場では、オブジェのような現代陶芸の作品を茶道具に見立てて茶を楽しんだり、歌人が即興で詠んだ歌を書で表現したりする。地元の現代美術家、朝岡あかねさんは「茶の世界は現代アートと通じるものがある。ライブ感覚のアートを楽しんで」と話す。

書家の西村佳子さんは、海のシルクロードの終着点だった堺の歴史を長さ9㍍の和紙に描いた絵巻物を出品。同市役所前で公開制作したもので、西村さんは「大航海時代に文化やモノなどの終着点が堺だったというイメージを描いた」と語る。

当日は午前10時、11時、正午から先着各20人程度で茶会（参加費500円）を開催。午後2時からは現代アートの可能性を探るトークイベントもある。展示は午後6時まで。問い合わせは堺アートプロジェクト実行委（072・232・1682）。



イベントに出品される絵巻物を制作する参加者ら（堺市役所前で）

「希望出生率1.8」実現へ環境整備

地方創生 会見から

【25日 石破地方創生相閣議後記者会見】

――昨日、安倍首相が自民党総裁に再選され、記者会見で「（結婚や出産への国民の希望がかなった場合の）希望出生率1・8」の実現を掲げた。地方創生相として、どう関わるか。

「結婚したい方やお子さんを2人以上欲しい方の希望をかなえるため、いかなる環境整備が必要かとの問題意識を持っている。地方創生の観点から、地域に根着した形で、希望を妨げている要因を除去することによって、出生率を高めていきたいと考えている。政府にできること、自治体や企業にお願いすべきこと、個人がどのような行動に移るかをよく考え、施策を展開したい」

――来年度創設予定の企業版ふるさと納税制度について、どの程度の減税になるかなど現段階での考えを。

「対象は法人住民税と法人税だが、地方公共団体に与える減収の影響をどう考えるかなど、よく検討しなければならず、今の時点で税額控除の割合は、決定していない」

市内

枚方
豊中
本社　東大阪
堺
泉佐野

ニュースは本社社会部
06・6366・1640　FAX 6361・0733
豊中支局　06・6857・2345
東大阪支局　072・966・4988
枚方支局　072・841・6565
堺支局　072・232・1072
泉佐野支局　072・456・7190
ホームページ
http://www.yomiuri.co.jp/local/osaka/
ご意見・ご要望は読者センター　06・6363・7000
購読・配達は　0120・4343・81
広告のご用は　06・6367・8200
折込広告は　06・6367・9000

中学生スマホ討論会

寝屋川市の中学1年生2人が遺体で見つかった事件を受けて、同市立中12校の生徒会役員約30人が27日、スマートフォン（スマホ）の使い方について考える緊急の「中学生サミット」を開く。市教育委員会は、サミットの成果を市の11月の広報誌に掲載し、保護者や地域住民らに理解と協力を求める。

スマホは「持っていれば、何かあっても友達や親と連絡が取れる」という安心感から、中学生らが夜、出歩く要因にもなっているとされる。サミットでは、生徒が五つのグループに分かれて携帯電話の功罪を検証。12校の生徒約600人に今月、実施したアンケートの結果を踏まえて話し合う。

サミットは、子供を取り巻くネット環境に詳しい竹内和雄・兵庫県立大准教授らが支援する。竹内准教授は「生徒自身が考え、作った決まりで自分や友達の身を守れるようサポートし、二度と悲しい事件が起こらないようにしたい」と話している。

あす枚方「月見の宴」